

## 令和6年度 第2回 舟橋村立舟橋小中学校 学校運営協議会 会議録（概要）

- 1 日 時 令和7年3月7日(火) 15:30~17:00
- 2 場 所 舟橋村役場 3階ホール
- 3 出席者 良峯 喜久男（舟橋中学校同窓会長） 前原 英石（スポーツ協会会長）  
深川 敦夫（自治会連合会長） 馬場 章博（舟橋小学校育成会長）  
松越 正純（舟橋小学校長） 内生蔵 保人（舟橋中学校長）  
内生蔵 保人（舟橋中学校長） 深川 泉美（社会教育委員）  
京角 由美（主任児童委員） 高野 良子（舟橋図書館名誉館長）  
松下 雅人（舟橋会館長） 野村 智浩（統括コーディネーター）  
沙魚川 恵子（活動推進員） 綿引 正則（社会福祉協議会長）
- 欠席者 井上 里恵（舟橋中学校育成会長）
- 事務局 土田 聡（教育長） 海見 英理（舟橋小学校教頭）  
前原 靖（社会教育係主幹） 松井 功一（舟橋中学校教頭）  
金山 智彦（社会教育係長） 平澤 千織（学校教育係主任）

### 4 内 容

#### （1）開会挨拶 <良峯会長>

小学校では、2/28にはサンフラワープロジェクト給食、3/4にサケの稚魚の放流と新聞やテレビで取り上げられていた。

中学校では、75周年記念式典の5月31日に向けて、準備を進めている。

小中学校からの報告を受けて、建設的なご意見を出していただきたい。

#### （2）協議事項

##### ①小中一貫教育について <内生蔵校長>

###### （1）小中一貫教育について

・新校舎38年目を迎え、小学校と一緒に過ごしている中で、スープの冷めない距離に校舎があることは良いことだと感じている。9年のまなびについて、改めてそれぞれの良さを振り返っていただきたい。実践については、4つの窓から取り組んでいる。

###### 1.実践

###### 【地域連携】

特に校内サンフラワー活動については、小学校は村のサンフラワープロジェクトに協力的と聞いているが、中学校でも、中庭にヒマワリを育てていた。また、生徒の中には、コーヒーカップ作品の題材として村長の顔やひまわりを取り上げている生徒もおり、いろいろな形で村の諸行事に協力したいという子供達の気持ちの表れだと理解している。

###### 【人格形成】

メッセージの交流や読み聞かせ活動等、子ども達は責任感ややる気を持って取り組んでいた。英語のビッグブックを使っの英語の読み聞かせも行った。少しずつ変化も持たせている。小中一緒にという読書通帳が子供達に配られ、今後大人になっても使えるものとして位置付けていくものと思われる。

#### 【健全育成】

大きなものとして、地域保健推進委員会が継続的に行われている。

メディアコントロールは世界中の課題である。

本校の子供達の取組、実態について、保護者の考え等を理解いただければと思っている。

#### 【協働学習】

小中それぞれの中で、昔のように机を前向きに並べた授業ではなく、グループ活動、しかも ICT を利用してのグループ学習がずいぶん行われるようになってきた。

働き方改革の観点から小6児童の部活動体験もなくなりつつあるが、

小学校にも協力してもらって今年度も行うことができた。

早期に部活動を決めて、目標を持って進学してほしい。

## 2.成果

日常的にコミュニケーションがとりやすい 日常生活の中で社会的な環境を具体的に知る、利用することで今後の改善点を知ることができる。

総合的な学習の時間には、オレンジパークのバスケットゴールに避難所としても使えるように屋根をつけることを村に陳情した。

生活リズム・メディアコントロールについては、子供達自身の考え方も変わってきている。

## 3.課題と今後の改善

メディアコントロールは、アクションプランを立てて取り組んでいる。

学習という概念や求められるものも変わってきた。

テストの点数がよければいいではなく、生きる力に繋がる思考力、判断力、表現力等を身に付ける学びの在り方について模索している。

次年度より中学校は教科書も変わるの、その辺も含めて小中連携して取り組んでいきたい。

### ②各学校の運営方針について(小学校) <松越校長>

・今年度は主体性と挑戦心の育成に重点を置いて進めてきた。

【ふ】・・・ふるさとを愛し、地域に学ぶ子供

#### ○総合的な学習の授業（3年生以上）

舟橋の良いところを取り上げてたくさん取り上げて進めてきている。

・3年生は、田植え稲刈り体験に加え、サトイモ、玉葱等、収穫体験をさせていただいている。

サンフラワープロジェクトも3年生が関与している。

種まきから収穫、油をとる、最終的に給食で出す。舟橋村の農業の理解と関心が深まった。

・4年生は、環境面の学習に取り組んでいる。(環境チャレンジ10)

サケ・マスに関しては9年間取り組んでいるが、地球温暖化により減少しているということを知っている。まだ活動には至っていないが、関心意欲は高まっている。

・5年生は、こども園やすきっぷ園との連携を図るため、園へ行って交流を深めたり、就学時健診でエスコートをしたり、半日入学体験で読み聞かせをしたり一緒に遊んだりしている。

この子供たちが6年生になった時に、1年生として入学してくる子供達となるため、スムーズな繋ぎとなる。

・6年生は、身近な自然調査をしたり、サケやマスの稚魚を育てて放流したり、リバーサイド公園の整備を行っている。たくさんの報道機関が取材に来ており、NHKで全国放送された。

この活動が新しい子供達、教職員によって続けていき、新しい伝統となっていけばと思っている。

・協調性を高める自然活動として、毎年の1、2年生の雪に親しむ活動を行っている。

単一学年ではなく、二学年交流の機会となっており、協調性が育まれている。栽培活動等も合同で行っている。

・4~6年生は立少での宿泊学習を行っている。各学年の発達を考えた活動を取り入れている。

6年生は育成会の協力を得て、立山登山も行ってた。苦手な子も励まし合って、今年度は全員登頂することができた。

子供達を支える舟橋村の人材は多種多様だと思う。今後も広めていき、地域からの協力者が増えていけばと思っている。

【な】・・・なかよく助け合い、思いやりあふれる子供

・優しい子を目指して、思いやりの心が大切。これに関して挨拶がキーワードとなってくる。

最近、挨拶ができていないという話もでていますが、集計時点では、昨年の方ができていなかったが、今年はこれではだめだという視点からか、集計後、挨拶は増えている。

2学期時点の自己評価は落ちていたが、自分自身ができていない部分をもっとやろうとし、挨拶への抵抗もなくなってきている。

地域に出ると少なくなるので、それを支える家庭での挨拶はどうかというところで、学校の取組を知ってもらうだけでなく、家庭とともにやっていく考えで育成会とも共有して展開していきたい。

【は】・・・働くことをいとわず、進んで行動する子供

・昨年度と今年度、富山県の保健推進校に選ばれており、11月に会を実施。参加された先生から非常に高い評価を受けた。

・本校の強みは食の部分であり、とやまゲンキッズアンケートにおいても給食の評価は高い。

①の朝ごはんや②けが防止については高い数字であるが、③イライラすることはないについては、非該当者もいるので、メンタル面、目に見えない心のケアは必要と考えている。

・メディアとの付き合い方については、小ではアンケートは未実施。中学校は気にしている。

“使ってはいけない”ではなく、時間を決めてという風に伝えている。ルールを守った使い方が大切。

【保護者アンケートより】

○教育方針等、学校の取組の様子が伝わっている

HPは日々更新している。メールでの報告をしている。報道機関も利用し、

“見てください”“知ってください”という取り組みを続けている。

学年によってコンタクト量は異なり、低学年は多く、高学年は少ない。学年に合わせてというところではあるが、反省点でもある。

○子供の学力や心身の育成に努めている

家庭学習もあわせて学校がもう少し丁寧に家庭と関わる必要があると感じている。

○子供を認め励まし、一人一人に応じた指導を行っている

ICTとして、タブレットが配付されている。次年度、新しいものに更新。使用状況は、学年によるバラつきがある。また、個別に指導に生かされているのかについてはまだまだであり、担任が個別指導する、補助の教員が個別指導する、家庭学習で利用する等、次年度は様々な形で利用してほしい。

【し】・・・しっかりと見聞きし、よく考える子供

・「学校を楽しみにしている」は後期下がっているが、9割近くが楽しみにしている。

朝の様子を見てみると、暗い顔をしている子もいる。表情を見つつ、笑顔溢れる学校を目指す。

【保護者アンケートより】

○働くことをいとわず、進んで家の手伝いをしている。

家で進んで行うということは難しい。

休みに入る前には、手伝いではなく、家で自分の仕事は何かな？それを頑張ろうねと伝えている。各家庭での呼びかけだけでは難しいので、学校からの呼びかけの工夫も必要。

○家族や友達を思いやる温かい心が育っている。

子ども達も保護者も感じている。表彰等の場面では、子供達が自然と拍手をしている。友達の頑張りを自分のことのように拍手をする子供を見ると嬉しくなる。

○難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している

少し上がっている。元々がかなり低い項目だったため、わずかの伸びに期待している。自尊感情に関わる部分なので今後も伸びて行ってほしい。

「ハンドサイン」ウメライス

ウ・・・頷きながら　メ・・・目を見て　ラ・・・ラストまで　イ・・・一生懸命に  
ス・・・スマイルで

聞き上手はしっかり育っている。話し上手はなかなか迷いがある。

子供の主体性を大切にという目標から担任からの指示でなく、子供と一緒に決めていく。

話し上手の目標値には達していないが、ペアやグループ学習を取り入れている。ただし、まだ担任指導でも一方的にしゃべっている学年もあるので改善が必要。

②各学校の運営方針について(中学校) <内生蔵校長、松井教頭>

II「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」のまとめ

受け入れ先との交渉をテトラに行ってもらえることで、地域を知っている方々に繋いでもらえて助かっている。

III学校運営に係る評価

3 実施状況等について

(1) 人的側面

令和5年度より令和6年度は超過勤務時間が少なくなっている。職員も気を付けるようにしている。

(2) 施設環境管理面

①トイレ洋式化

育成会からの声によって、今年度、校内のすべてのトイレがすべて洋式化された。子ども達からの評判は良い。

②AIドリル

朝学習で活用している。自宅学習での利用している。

3年においては、まだアナログであり、プリントが多いところもある。

(3) 教育的側面

①レポート提出

主体的な学習としては、まだ浅い。評価基準が難しいということもある。

(3) 地域学校協働活動について <舟橋テトラ 土田>

・今年度より野村さんに統括コーディネーターを依頼しているが、仕事もあるので、今年度も前任である教育長が業務を行った。沙魚川さんと佐伯さんと連携をとって手伝ってもらう予定であったが、実情としてはうまくできてはいない。なかなかコーディネーターとの連携取れていない

○学習会

夜19時30分から20時30分まで行っている学習会には、小3～中3が参加している本村の大学生が主になって指導員だが、大学3年生のため、就職して離れていくため、次の世代を育てたい。誰か良い方がいたら紹介してほしい。

○ながら見守り隊

最近、帽子をかぶった方はあまり見かけないが、のぼり旗はよく見かける。今年度、小学校の旧正門のところに横断幕を設置した。今後も周知、呼びかけをしてきたい。

○学校てっだい隊【今年度からの取組】

水色のベストを着用して、学校内で活動しており、現在の登録は5人。花壇の手入れや清掃活動、子どもの休み時間の見守りもお願いしていきたい。

○川清掃

例年、子供達が放流したがサケやマスの稚魚が帰って来れるようにと子供達と一緒に細川の川清掃を行っている。

毎年2トンのごみが上がってくる。毎年行っているので、次年度も行う予定。

・今後の課題としては、テトラというものがまだまだ村の中で周知がされていない。組織ではなく、体制であることも含めてうまく周知されていない、広報がまだまだである。

人材がいないとことで、団体がテトラに人材探しの相談をしてくれれば手伝うこともできる。村民と団体をつなぎ合わせることも可能。

テトラで図書館での読み聞かせをするというボランティアの機会を作ることができるのではないかと意見もいただいた。

次年度は、コーディネーターがもう少し自由に動けるようになるということで期待している。今度は村の方がコーディネーターで村の中のことがよくわかっていると思うのでその部分も生かしてほしい。

#### ○質疑応答

(問) 今日初めての方もいるので、この会議の目的や趣旨をお伝えいただきたい。その方が沿った形での話し合いができるのではないかと。

(答) テトラ立ち上げ時には趣旨等を説明しているが、新たな方には説明ができていない。

学校運営協議会については、今年度は2回しか開催できていないが、本来は数回開催するもの。全体会ではなく、課題が上がったものをそんな方法をとるか、課題解決に向けて話し合うことが趣旨。

こんな子供を育てたい、地域とこんなことができないかという案を出して、そのためにどうしたらよいかという意見を盛り上げてもらい、こうしようよというところの下にテトラがいます。

テトラが人集めや場づくり、団体をつなぐことをする。

令和3年テトラ立ち上げ時には趣旨等を記載したものを全戸配布し

チラシも何度か配付はしているが、コロナで周知の場を失っていたので今後また行っていきたい。

資料も新たなものを作成する。

(問) この会はいろんな立場で活躍し、いろんな情報を持っている方々が集まっている貴重な機会であり、回数を増やすことで、情報共有、情報交換など、いろいろなことができる場ではあるが、現状、この機会を有効に利用できていないように感じる。子供達にとってどんな役に立っているかわからない。もっと委員の皆さんから十分にご意見をいただく必要があるのではないかと。

(答) 学校運営協議会は住民主体で行う。立ち上げ時なので、行政が入っているが、基本的には教育委員会が入らず、住民で行っていただくものである。なので、住民の中で動かせる形に何とか持っていきたいと思っている。

(問) 課題を取り上げて話し合うというところで、小中学校と保護者で話し合っているうPTAで考えている課題等をこの場に持ってきて話し合うことはできるのか。

(答) 出していただいて問題ない。今までこのように話していないので課題が上がってきていないと思うが、学校の困っていること、地域で困っていることも出してほしい。

ただ、委員さんだけの話ではなく、取組の先進的な地域では、課題に合わせて子供やPTAも話し合いに入っているところもある。仕組みづくりを考えていきたい。

(問) いろんなところからであると、分野が広すぎる。学校の悩みをいってもらえた方がそれに対してどうできるかを考えた方が話しやすいのではないか。

(答) 次年度は、課題を出して話し合うようにしていきたいと思います。

(意見) そもそも協議会は立ち位置が住民主体である。舟橋村には、住民主体の団体は数多く存在しているが、ほとんどの団体は住民主体と言えるのかという状態。

本来の目的を達成するために、どうやって動かしたらよいかの課題

それができるようになるには、担い手不足や住民主体でのボランティアを見つけることが難しい。

献身的な誰かに頼るしかない。

住民主体の動きをどうやって拾って育てていくのかを真剣に考えていく時期。

教育長が100%考えることではないので、住民が我が事として考えていくことだと思っている。

(意見) 一生懸命が見えていて素敵だなと思っている。先生方も教育長もきちんと説明をしたり、資料まとめたりできている。こんなことができる先生方のもとで学べる子供達はすごいんだろうなと思っている。いろんなイベントや仕事を一生懸命取り組んでいることを伝えることが大切だと思っている。

誰かが頑張っている姿を、“あの方すごいね”“この人とこの人は一緒に頑張っているんだって。素敵だね”と人に伝えていくことをどんどんしていくことで、人と人がくっついたりして力が力を生むのではないかと考えている。自分が何かできるのではないかと考えた小さいことをここで出し合って、困っていることや足りないこともいいが、良いところも寄せ集めてみたらテトラに近づいていくのではないかと考えている。

(答) ご意見をいただきました。本来はこうやってご意見を活発的に出し合っていただくのが酔うのですが、大きな会場では話にくく、有意義な時間をいただきました。次年度もこのように多くのご意見をいただける運営協議会を作っていきたい。

#### (4) 開会挨拶 <前原副会長>

第2回目となりましたが、任期中、学校運営を通していろいろなご意見がありましたら声をあげていただければと思います。そして、皆さんの力で課題解決がひとつでもできればと思っております。

今後、機能的な組織として幅広く周知しながら地域とともにある学校づくりを実現するためにこれ以上のご理解とご協力を賜りながらこの会が大きく成長して行ってほしい。